

平成29年度(2017.4-2018.3)

血液事業概要

埼玉県赤十字血液センター

目次

所長あいさつ	1ページ
埼玉県赤十字血液センターの沿革	2ページ
組織機構図と職員数	7ページ
血液センターの業務	8ページ
施設の案内	12ページ
献血ルームの案内	14ページ
広報・キャンペーン活動	16ページ
研修・見学	18ページ
統計資料	20ページ

所長あいさつ



平素より埼玉県赤十字血液センターの血液事業に対しまして深いご理解と格別のご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

埼玉県におきまして平成 29 年度は前年度を約 3000 人上回る 22 万 9 千人の方々に献血へのご協力をいただき、各医療機関に必要な血液製剤をお届けすることができました。ここ数年は献血者確保が必ずしも十分ではなかった中で、29 年度の改善は、献血にご協力いただいた皆様をはじめ、埼玉県・各市町村の行政はもとより、地域の協力団体、多くの皆様のご協力の賜物であり、あらためて心より感謝を申し上げます。

しかしながら、埼玉県内では全国でも例を見ない速さでの高齢化の進行と、これに伴う医療需要の急激な増高が懸念されております。埼玉県赤十字血液センターでは、これに対応できる血液事業の体制の強化と効率的な事業展開を関係の皆様方のご支援・ご協力をいただき進める必要があります。

特に近年の動向をみますと、若年層の献血者数には減少傾向がみられ、中高年層の方々に献血の多くを担っていただいている状況です。もちろん健康な中高年の方々には、相応の献血ご協力を期待しておりますが、将来を見据えますと若年層の献血離れに何とか歯止めをかけ、若年献血者の増加と定着を図ることが、血液事業の最重要課題であるといえます。

埼玉県は平成 29 年度までの 11 年間にわたり高校生の献血協力数日本一を維持してまいりました。行政、教育関係の皆様とともに、今後もこれを維持できるよう努めてまいりたいと考えております。また、若者に身近な SNS の活用、低年齢層を対象とした献血に関するイベントや埼玉県内の学生で構成する学生献血推進連盟との連携をもとに、種々の若年層への啓発等を積極的に進めてまいります。

また、献血者確保につきましては、新規協力団体、事業所等への働きかけを持続強化して献血バスによる移動採血の実績の一層の向上を図り、献血ルームにおいても採血の効率化を進めてまいりたいと考えております。さらに携帯メールクラブにつきましても、安定的な献血者確保に向け、会員数の一層の増加に努めてまいります。

私どもは埼玉県での血液製剤の需要増加を念頭に上記の課題について一丸となって取り組み、安全な血液製剤の安定供給の実現に向け努めていく所存ですので、引き続き皆様方の力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 7 月

埼玉県赤十字血液センター

所長 芝池伸彰

埼玉県赤十字血液センターの沿革

●1964年（昭和39年）

- 8月 「献血推進について」の閣議決定
- 11月 日赤本社から日赤埼玉県支部に移動採血車（愛の献血車）1台配備
- 12月 埼玉県献血推進協議会を設置

●1965年（昭和40年）

- 2月 埼玉県赤十字血液センターを大宮赤十字病院の一室に開設（業務開始）
- 6月 埼玉県赤十字血液センター施設を大宮赤十字病院の敷地内に新築落成



- 9月 「第1回愛の献血助け合い運動」を実施
- 11月 県内の保健所地区すべてに献血推進協議会を設置

●1967年（昭和42年）

- 3月 県内の市町村すべてに献血担当窓口を設置

●1968年（昭和43年）

- 4月 献血相談員制度（1971年4月に献血指導員に改称）を発足
- 8月 不規則抗体スクリーニング検査を開始
- 10月 県内最初の市町村献血組織（川越市献血会）を設置

●1969年（昭和44年）

- 8月 県内での献血者10万人を達成
- 10月 「第1回埼玉県・愛の血液助け合いの集い」を埼玉会館（浦和市）で開催
- 11月 県費補助金により肝機能・血液型検査サービスを開始（1977年3月まで実施）

●1970年（昭和45年）

- 4月 浦和出張所、大宮出張所、東松山出張所、深谷出張所を開設（1983年12月に廃止）

●1971年（昭和46年）

- 3月 Au（HBs）抗原検査を開始

- 11月 川口出張所を開設（1983年12月に廃止）

●1973年（昭和48年）

- 8月 血液成分製剤の製造を開始

●1974年（昭和49年）

- 4月 国庫補助金により血液代金自己負担金給付制度を発足（1986年4月廃止）

●1975年（昭和50年）

- 9月 血液製剤用に血液型別カラーラベルの使用を開始

●1976年（昭和51年）

- 8月 Rhマイナス型の献血者登録を開始
- 11月 埼玉県赤十字血液センター施設を県立がんセンター敷地内（伊奈町）に新築移転、旧施設は大宮第二出張所に改称（1983年12月に廃止）

●1977年（昭和52年）

- 4月 異常値を示した献血者に対する生化学検査結果の通知を開始
- 6月 献血者登録制度を開始
- 10月 HBs抗原検出用試薬の製造を開始

●1978年（昭和53年）

- 4月 HBs抗原検出用試薬の全血液センターへの供給を開始

●1979年（昭和54年）

- 3月 県内での献血者100万人を達成



- 4月 HLA抗体スクリーニング検査を試験的に開始
- 7月 研究部（HBs抗原検出用試薬の製造供給・開発研究）を設置
- 9月 岩槻市役所で県内最初の出張（オープン）採血を実施
- 10月 バッグによる採血に全面切替（ビンでの採血を中止）

●1980年（昭和55年）

- 1月 献血手帳から優先還元に関する記載事項を削除

●1981年（昭和56年）

- 3月 第1回学術研修会を埼玉労働会館（浦和市）で開催
11月 県内での献血者150万人を達成

●1982年（昭和57年）

- 4月 献血者全員に対する生化学検査結果の通知を開始、献血手帳から供給記録欄を削除

●1983年（昭和58年）

- 4月 HLA抗体スクリーニング・抗体同定検査をルーチンとして実施、HLAタイピングトレイの製造・供給を開始（熊谷赤十字血液センターに引継ぎ、1997年9月に中止）
7月 県内2つめの血液センターとして、熊谷市に熊谷赤十字血液センターを開設（新築）
10月 県内での献血者200万人を達成

●1984年（昭和59年）

- 3月 県内最初の献血ルームとして、大宮駅近くに大宮西口献血ルームを開設（2001年7月に移転）
4月 大宮分室施設を増改築し研究部を移転
11月 米国赤十字血液センターから稀な血液型の血液を緊急確保

●1985年（昭和60年）

- 11月 英国の血液センターから稀な血液型の血液を緊急確保

●1986年（昭和61年）

- 4月 400mL、成分献血の実施
5月 所沢西武アパート内に所沢西武献血ルームを開設（2001年4月に移転改称）
5月 熊谷赤十字血液センターで抗ヒトグロブリン（クームス血清）の製造供給を開始（2002年3月に中止）
7月 AIDS抗体検査（ELISA法）を開始
9月 血球計数検査を開始
県内での献血者300万人を達成
11月 ATL抗体検査を開始

●1987年（昭和62年）

- 7月 第23回献血運動推進全国大会を埼玉県

（浦和市文化センター）で開催（ご臨席の皇太子殿下・同妃殿下が熊谷赤十字血液センターを行啓）



●1988年（昭和63年）

- 4月 越谷サンシティ内に越谷サンシティ献血ルームを開設（2008年9月 移転閉所）

●1989年（平成元年）

- 11月 HBc抗体検査（HI法）・HCV抗体検査（ELISA法）を開始

●1990年（平成2年）

- 7月 HLA適合血小板製剤の供給を開始

●1991年（平成3年）

- 4月 日赤埼玉県支部内に第三血液センター開設準備室を設置（1993年5月迄）
6月 CMV抗体検査を開始
11月 熊谷成分献血友の会が発足

●1992年（平成4年）

- 1月 埼玉県赤十字血液センターと熊谷赤十字血液センターに骨髓データセンターを併設
5月 大宮駅東口に大宮東口献血ルームを開設、クレアモール商店街（川越市）に川越献血ルームを開設

●1993年（平成5年）

- 4月 日赤埼玉県支部内に第三血液センター開設準備室を設置（同年9月迄）
7月 日高市に第三血液センターの竣工
10月 第三血液センターを埼玉県赤十字血液センターとし、旧・埼玉県赤十字血液センター（伊奈町）を埼玉県伊奈赤十字血液センターに、熊谷赤十字血液センターを埼玉県熊谷赤十字血液センターに名称を変更（埼玉県赤十字血液センターを中心とする3血液センターによる県内一体運営体制がスタート）

●1994年（平成6年）

- 3月 HIV-2抗体検査を開始
- 4月 輸血後GVHD防止のための技術（血液製剤への放射線照射）協力を開始
- 11月 3血液センターのオンラインシステム（血液事業統一システム）が稼働

●1995年（平成7年）

- 3月 医療機関に対する血液製剤直配体制に移行（供給業務委託の中止）

●1996年（平成8年）

- 10月 鴻巣自動車運転免許試験場敷地内に鴻巣献血ルームを開設（2014年4月 改築）

●1997年（平成9年）

- 10月 埼玉県伊奈赤十字血液センター・埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける検査業務を埼玉県赤十字血液センターに集約化

●1998年（平成10年）

- 6月 放射線照射輸血用血液製剤の供給を開始

●1999年（平成11年）

- 4月 献血者の採血基準を改正（献血年齢を69歳に引上）
- 5月 献血者データの全国オンラインシステムを稼働
- 10月 核酸増幅（NAT）検査を導入
プールサイズを500検体でスタート

●2000年（平成12年）

- 1月 希望者に対するHTLV-1抗体検査結果（異常の場合）の通知を開始
- 2月 核酸増幅（NAT）検査における検体のプールサイズを50検体に変更
- 4月 川越献血ルームを移転し、川越献血ルームポケットとして新装開所（2011年10月 移転閉所）
- 6月 埼玉県伊奈赤十字血液センター・埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける製剤業務の一部（血小板製剤等の製造）を埼玉県赤十字血液センターに集約化
- 7月 第1回彩の国血液フォーラムを開催（以降毎年開催）
- 8月 熊谷駅施設内に熊谷駅献血ルームを開設（これを機に、埼玉県熊谷赤十字血液センター施設での採血を中止）

●2001年（平成13年）

- 4月 所沢献血ルームを移転し新装開所（2009

年12月 移転閉所）

- 7月 大宮東口献血ルームと大宮西口献血ルームを統合し、大宮駅献血ルームとして大宮駅構内に新装開所（これを機に、埼玉県伊奈赤十字血液センター施設での採血を中止）
- 8月 埼玉県伊奈赤十字血液センターにおける製剤業務の全てを埼玉県赤十字血液センターに集約化

●2002年（平成14年）

- 6月 埼玉県赤十字血液センター施設の敷地内に同センター新館を建設
- 7月 埼玉県熊谷赤十字血液センターにおける製剤業務の全てを埼玉県赤十字血液センターに集約化（県内における検査・製造業務の集約化が完了）
同時に、採血業務、渉外業務、管理業務等を含む血液センター業務の県内一体運営体制を確立
安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律が制定（全面施行は1年以内）

●2003年（平成15年）

- 1月 研究部を埼玉県熊谷赤十字血液センター施設内に移転（大宮分室を廃止）
- 6月 越谷サンシティ献血ルームを新装開所（2008年9月 移転閉所）
- 7月 安全な血液製剤の安定供給の確保に関する法律が全面施行
血液製剤の表示事項（「献血」・「非献血」の採血方法の追加等）・添付文書等の改定など
（改正薬事法の施行）

●2004年（平成16年）

- 1月 新鮮凍結血漿の2ヶ月間（60日間）の貯留保管開始
- 3月 携帯メールクラブ受付開始
- 5月 第2次血液事業統一システムへ電算システムの変更
- 6月 新鮮凍結血漿の貯留保管棟を建設



埼玉県赤十字血液センターの沿革

- 8月 核酸増幅（NAT）検査における検体のプールサイズを20検体に変更
- 10月 献血者本人確認の開始
保存前に白血球除去した血小板製剤の供給を開始
- 12月 新鮮凍結血漿の4か月間（120日間）の貯留保管を開始

●2005年（平成17年）

- 3月 新鮮凍結血漿の5か月間（150日間）の貯留保管を開始
- 6月 英国渡航歴のある方の献血受入れ制限措置を開始
- 7月 新鮮凍結血漿の6か月間（180日間）の貯留保管を開始

●2006年（平成18年）

- 3月 携帯メールクラブの全国化
タッチパネル方式による問診回答システムの導入
保存前に白血球除去した成分採血由来の新鮮凍結血漿（FFP-5）の製造を開始
- 4月 埼玉県伊奈赤十字血液センターを伊奈出張所に、埼玉県熊谷赤十字血液センターを熊谷出張所に名称を変更
- 5月 埼玉センターでの血液製剤の県内一括受注開始
川口駅東口に川口駅献血ルームを開設
- 7月 長野県赤十字血液センターの検査業務を開始
- 9月 保存前に白血球除去した成分採血由来の新鮮凍結血漿（FFP-5）の供給を開始
- 10月 群馬県赤十字血液センターの検査業務を開始
これまでの献血手帳から本人確認が簡便で携帯性に優れる「献血カード」を全国で導入

●2007年（平成19年）

- 1月 保存前に白血球除去した赤血球製剤の供給を開始
3月末にかけて段階的に初流血除去を開始
- 4月 栃木県赤十字血液センターの検査業務を開始
- 6月 web会議開始
- 7月 大宮駅献血ルームを移転し新装開所（2014年7月 閉所）
- 11月 血小板製剤の有効期限の変更（採血後4日間）

●2008年（平成20年）

- 2月 感染症関連検査を化学発光酵素免疫測定法（CLEIA法）で開始
- 4月 新潟県赤十字血液センターの検査業務を開始



- 9月 長野県赤十字血液センターの製剤業務を開始
越谷献血ルームを移転し、越谷レイクタウン献血ルームとして新装開所
- 10月 研究部を廃止

●2009年（平成21年）

- 3月 糖尿病関連検査グリコアルブミン検査を開始
- 12月 所沢献血ルームを移転し、所沢プロペ通り献血ルームとして新装開所

●2010年（平成22年）

- 1月 英国渡航歴のある方の献血受入れ制限の緩和
- 10月 大宮駅西口に大宮献血ルーム ウエストを開設
- 12月 200mL全血献血者の方にも、血球計数検査結果の通知を開始

●2011年（平成23年）

- 4月 献血の採血基準を一部改正（男性に限り、400mL全血献血が可能な方の年齢の下限を17歳に引き下げ、血小板成分献血が可能な方の年齢の上限を69歳に引き上げた）
- 10月 第35回血液事業学会総会を埼玉県（埼玉会館）で開催（10/20～10/22）



埼玉県赤十字血液センターの沿革

10月 川越献血ルームを移転し、川越クリアモー
ル献血ルームとして新装開所

●2012年（平成24年）

2月 東松山市に埼玉県東松山赤十字血液セン
ター（製造棟）を開設し、検査・製造業務を
移転

茨城県赤十字血液センターの検査・製剤業
務を開始

3月 群馬県赤十字血液センター、新潟県赤十字
血液センター、栃木県赤十字血液センター
の製剤業務を開始

4月 血液事業の広域運営体制の開始
組織改正に伴い、埼玉県東松山赤十字血液
センターが関東甲信越ブロック血液セン
ター埼玉製造所となり、北関東・信越6県
の検査及び製剤業務を実施
伊奈出張所が事業所となり、埼玉県赤十字
血液センターは3部、1事業所、9出張所
体制に変更



8月 献血血液の検査基準の変更(輸血後のB型肝炎
対策として、「HBc抗体1.0以上12.0未満
かつHBs抗体200mIU/mL未満」の献血者
に対する献血制限の実施)

10月 シャーガス病に係る安全対策の開始

●2013年（平成25年）

1月 「献血の同意説明書」の導入
「献血の同意説明書」により献血に伴う副
作用に関する事項を含む4項目について同
意事項を説明し、同意いただいた方の献血
受入れ開始

11月 鴻巣献血ルーム改築のため、一時閉所

12月 献血会場にて、検査目的の献血のお断りと
問診事項への正しい回答で献血していただ
くため、「責任ある献血」の注意表示を開始

●2014年（平成26年）

1月 検査目的の献血者への注意喚起などを収
載した「お願い！」パンフレットの改訂

4月 鴻巣献血ルームを改築し、開所

6月 献血者データの全国オンラインシステム
を更新(血液事業情報システム)

7月 大宮駅献血ルームを閉所

8月 大宮献血ルームウエストを、面積・ベッド
数ともに増加して改装

1検体ごとのNAT（個別NAT）スク
リーニングを開始

9月 血小板の安定供給を目的とした分割採血
を開始

●2015年（平成27年）

3月 伊奈事業所を閉所
分画製剤の販売を終了



4月 さいたま市見沼区に本センターとしての
新社屋を竣工し、埼玉県赤十字血液セン
ターの本部機能を移転
旧埼玉センター（本センター）は日高事業
所と改称

11月 越谷レイクタウン献血ルームを改装

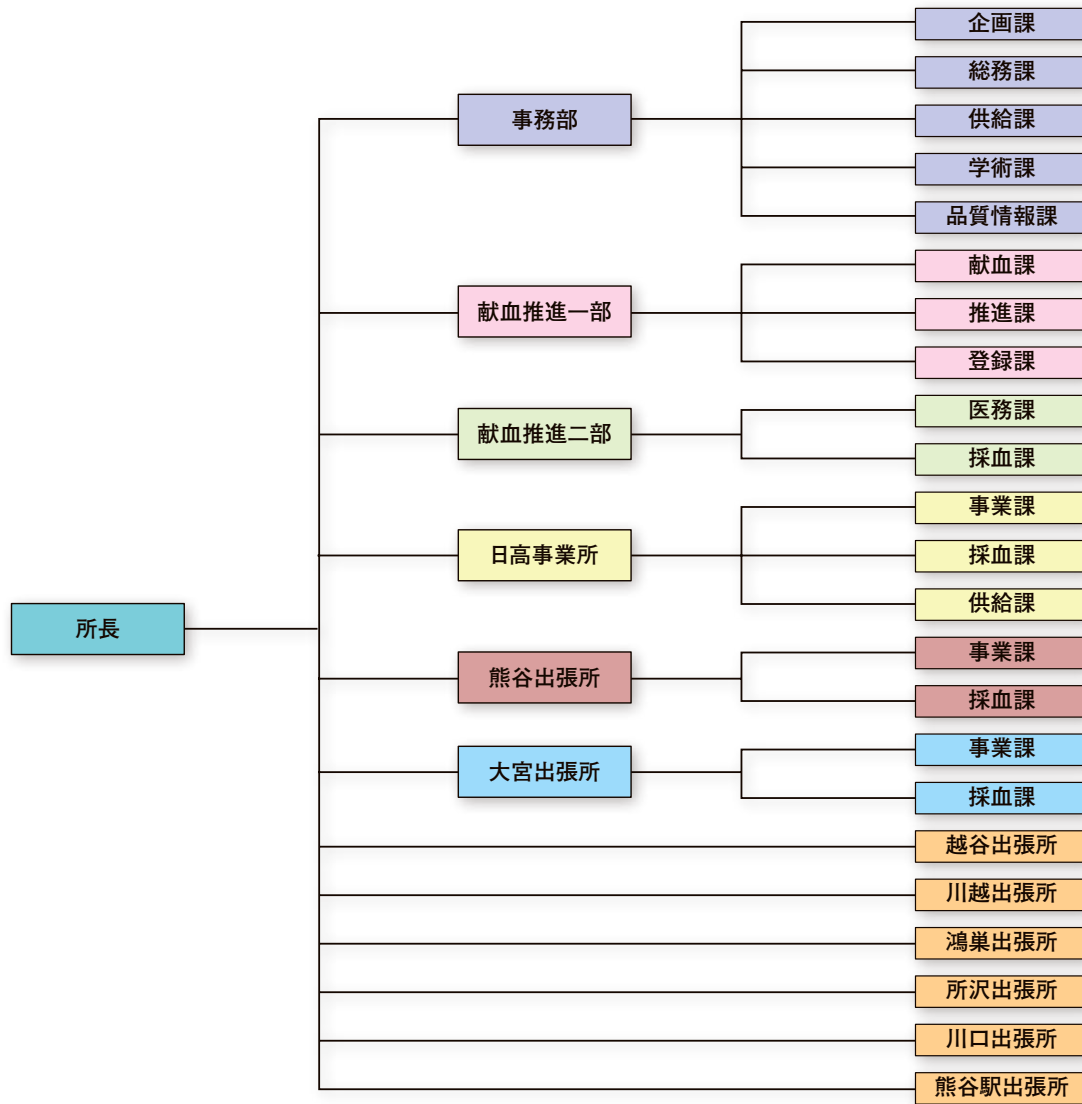
●2016年（平成28年）

4月 献血血液のALT（肝機能）検査による製品
除外基準の変更
【変更前】61IU/L以上 → 【変更後】
101IU/L以上

●2017年（平成29年）

4月 平成19年度から平成28年度において、高
校生献血者数が10年連続全国第1位

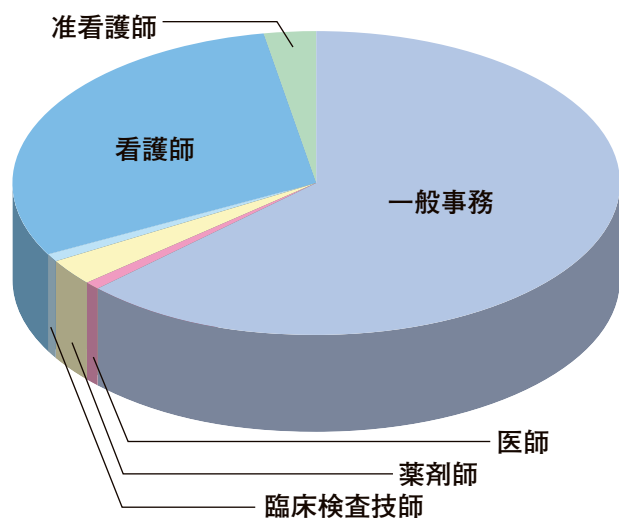
組織機構図と職員数



職員数

職 種	人数(人)	構成比
一 般 事 務	141	62.9%
医 師	2	0.9%
薬 剤 師	6	2.7%
臨床検査技師	2	0.9%
その他医療職	0	0.0%
看 護 師	67	29.9%
准 看 護 師	6	2.7%
合 計	224	100.0%

職種別構成比



平成29年3月31日現在

血液センターの業務

● 献血者の確保

埼玉県赤十字血液センターでは、県・市町村・献血推進協議会・献血推進団体と協力し、献血計画を作成したうえで、県内の事業所や学校、また地域における献血参加を呼び掛け、日々献血される方の受け入れを行っています。

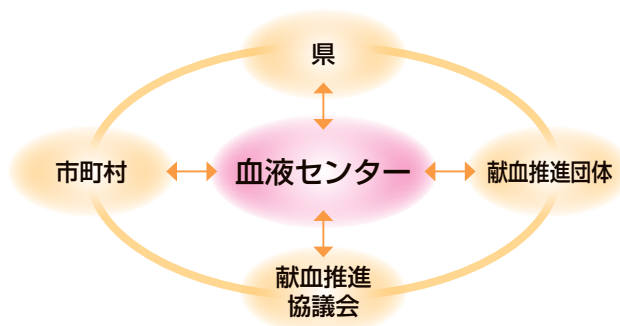
また、医療機関からの要請に対して、安定した血液の供給体制を確立するため、若年層に対する献血啓発や献血協賛企業の推進を図り、より安全な血液を確保するための各種キャンペーンを行っています。その他、Rh(-)の血液型やHLA適合血小板など、その患者さんにあった血液を確保する必要がある場合には、電話や手紙、Eメールでの献血協力要請を行っています。特に献血の依頼を迅速に行えるよう携帯電話のメールを活用した「携帯メールクラブ」を設立し、そのクラブへの登録も推進しています。



献血ルーム受付



移動採血



携帯メールクラブ

「携帯メールクラブ」とは、埼玉県赤十字血液センターにおける“複数回献血クラブ”の愛称です。

携帯メールクラブは安全性の高い輸血用血液を安定的に患者さんへお届けする事を目的として、年に複数回、県内の献血会場での400mL献血または成分献血にご協力いただける方を募集しています。

会員の皆様には血液センターから状況に合わせた献血依頼のメールを送信し、依頼内容に合った献血をお願いしています。また、メール会員限定のイベントも開催しており、会員の皆様からご好評いただいています。

● メールでのお知らせの一例

- ・成分献血を安定的に確保するための定期的な配信
- ・献血者が減少し、血液が不足した時の献血依頼
- ・特定の血液型が非常に不足した時の献血依頼
- ・血液在庫状況のお知らせ
- ・イベント・キャンペーン開催のお知らせ

● 携帯メールクラブの特典

- ・平成17年以降の検査成績等を見ることができます。
また、最新5回分はグラフ表示されます。
- ・携帯メールクラブポイントが貯まります。
(埼玉・東京・千葉・神奈川共通)
20ポイント貯まると次回の献血時に記念品と交換ができます。
- ・会員様対象に開催する講習会(ヨガ教室・料理教室等)に参加できます。
- ・成分献血の予約ができます。



こちらから登録いただけます
空メールを送信してください。

献血サポーター

献血サポーターとは、医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血や献血推進活動に積極的に協力いただける企業・団体のことです。献血サポーターとなった企業・団体には、「献血サポーターロゴマーク」を日常の企業活動等において活用いただいています。

国民の医療を支える献血のさらなる推進を図っていただき、また、社会貢献活動である献血活動を国民に広くPRする機会として「献血サポーター」へのご参加をお願いしています。

※このロゴマークは企業・団体が行う「献血活動」を応援するため、厚生労働省が製作したものです。
※このマークの使用にあたっては、「献血サポーター」活動への参加が必要となります。

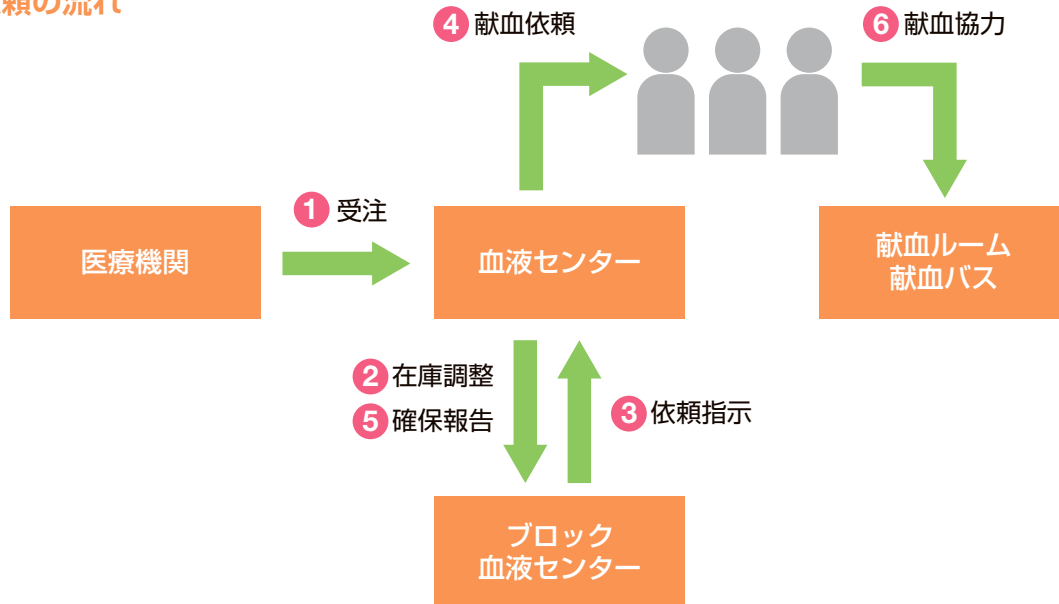


特殊な血液の献血依頼要請

埼玉県赤十字血液センターでは、皆様に献血の申し込みをいただく際に、献血依頼要請の可否について確認しています。この項目にご同意いただいた方に対して、下記のような場合に電話で献血のお願いをしています。

- (1) 輸血用血液の在庫が不足した場合
- (2) Rh(一)の血液の在庫が必要になった場合
- (3) HLA適合血小板が必要になった場合
- (4) まれな血液が必要になった場合

●献血依頼の流れ



平成24年度から血液製剤のさらなる「安全性の向上」と「安定供給の確保」および効率的な事業運営を行うため、これまでの都道府県単位の事業運営体制を見直し、各都道府県の血液センター単位によるものから、ブロックを単位とする広域的な事業運営体制に移行しました。このブロック化により血液在庫も広域で管理され、特殊血の在庫状況も短時間で把握できるようになりました。また、在庫がない場合にもブロックセンターが複数の血液センターに依頼要請を出すことにより、医療機関に対してより迅速な対応が可能となりました。

●採 血

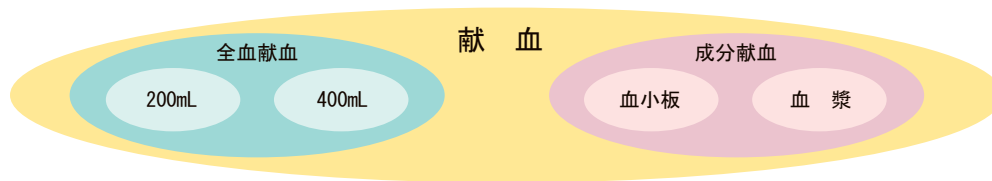
埼玉県赤十字血液センターでは、県内7か所に献血ルームを開設しています。また、県内1か所の血液センターと2か所の事業所及び出張所に配置した移動採血車を職場や地域の献血会場へ配車し、来場された献血者から採血しています。献血には下記のような種類がありますが、それぞれ採血するときには、献血者及び輸血を受ける患者さんの安全確保のために、血色素量・献血歴等の確認のほか、検診医師による血液検査ではチェックできない項目等の問診を行っています。



問 診



採血室



●供 給

埼玉県赤十字血液センターでは、埼玉センター・日高事業所・熊谷出張所の3供給施設において、各血液製剤を定められた条件下で適切に保管・管理しています。また、県内の3供給施設に血液運搬車を配備し、県内の医療機関に血液製剤を供給しています。医療機関からの発注は、埼玉センターで一括受注され、3供給施設から県内の約500医療機関に必要な血液製剤を24時間体制で供給しています。さらに、全国を7つのブロックに分け、広域的な血液製剤の需給管理体制により、輸血を必要としている患者さんのため、迅速に対応しています。



血液運搬車



供給出庫作業



供給出庫作業

●学 術

医療機関に供給された血液製剤は、必要な情報（品質・有効性・安全性等）が付加されてはじめて適正に使用されます。その情報を医療関係者に提供・収集・伝達する役割を担っているのが医薬情報担当者（MR：Medical Representative）で、学術課がその業務を行っています。いわば医療のパートナーとして訪問活動しており、輸血関連情報や適正使用に関する情報等の提供、輸血副作用への対応、問い合わせの対応、埼玉輸血セミナーや勉強会の講師などを主な業務としています。特に輸血に伴う副作用・感染症自発報告症例を医療関係者から情報収集し分析・評価することは、血液製剤の安全対策にも反映される重要な業務と位置付けられています。

また、適正かつ安全な輸血療法の向上を目指すため、平成21年7月には県内医療機関で組織される「埼玉県合同輸血療法委員会」が設置されました。平成30年2月17日（土）には、埼玉会館小ホールにて「第9回埼玉輸血フォーラム」を開催し、同委員会での活動の成果を報告しました。



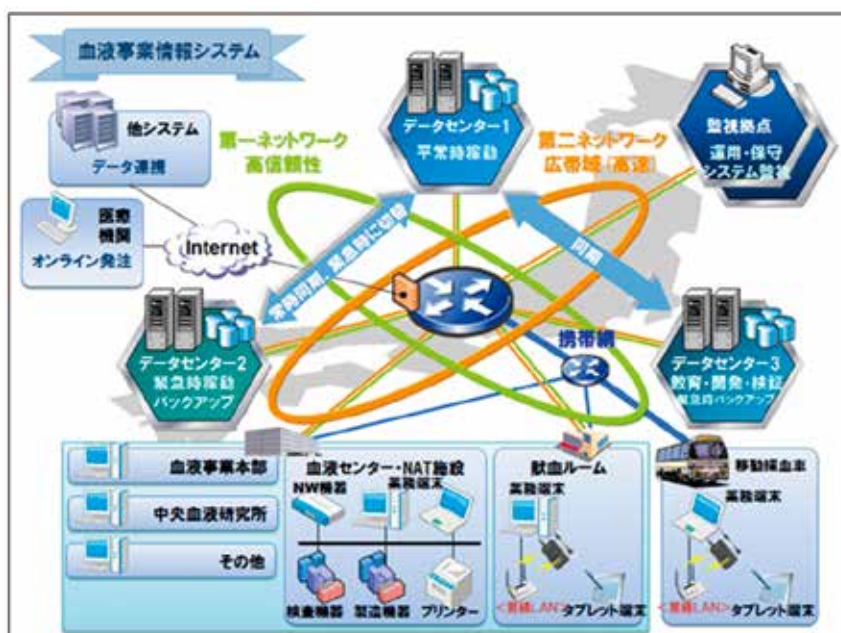
情報媒体の一例



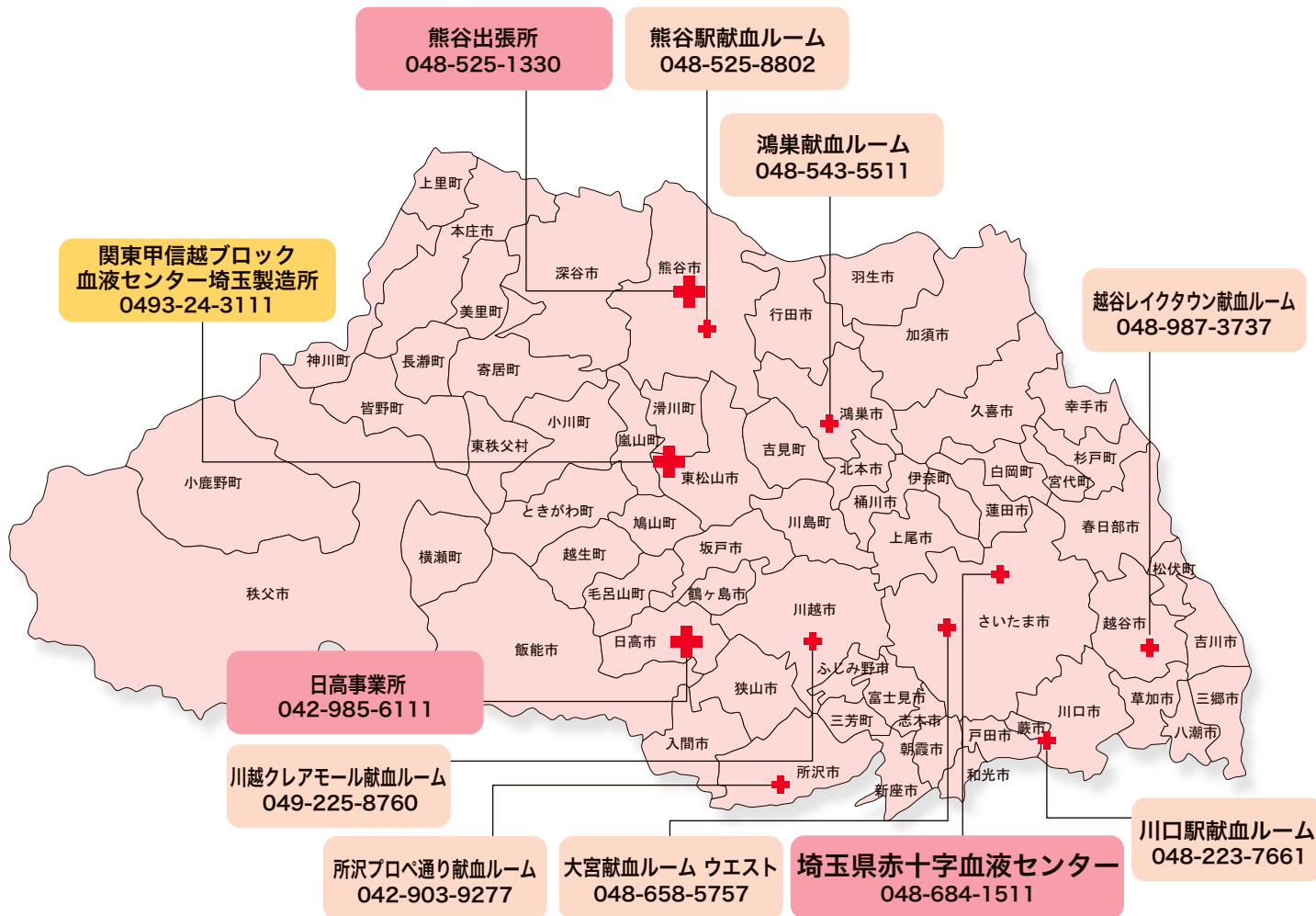
埼玉輸血セミナー

●情報システムネットワーク

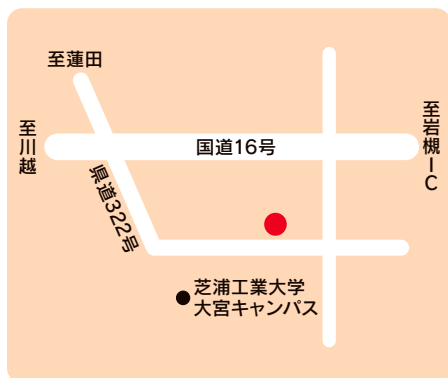
各地の血液センターでは、全国統一のコンピュータシステムを導入し、献血された血液を受け入れてから医療機関に供給するまでの業務をコンピュータ管理しています。また、全国的に整備されたオンラインネットワークを利用し、献血データの一元管理等を行って血液製剤の安全性の確保に役立っています。



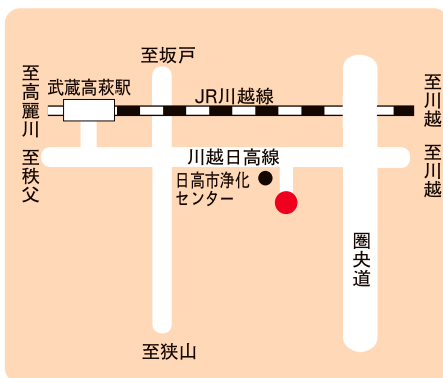
施設の案内



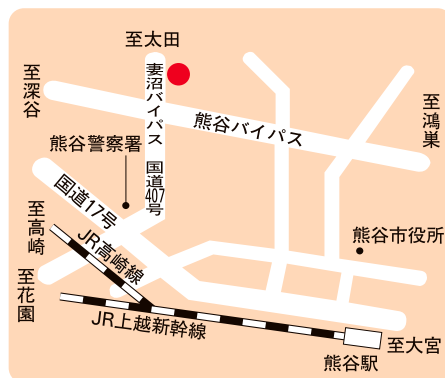
埼玉県赤十字血液センター



日高事業所



熊谷出張所



血液センター



埼玉センター全景

埼玉県赤十字血液センター

- 1 開設年月日 平成27年4月1日
- 2 所在地 337-0003
埼玉県さいたま市見沼区深作955-1
- 3 案内 JR宇都宮線東大宮駅からおよそ2km
048-684-1511
- 4 敷地面積 8,921.75㎡
- 5 建物の構造 鉄筋コンクリート造 地上2階建
- 6 延床面積 2,794.66㎡

日高事業所

- 1 開設年月日 平成5年10月1日
- 2 所在地 350-1213
埼玉県日高市高萩1370-12
- 3 案内 JR川越線武蔵高萩駅からおよそ2km
042-985-6111
- 4 敷地面積 9,830㎡
(埼玉県及び日高市有地)
- 5 建物の構造 鉄筋コンクリート造 地上2階建 (本館)
鉄筋造 地上2階建 (新館)
- 6 延床面積 2,885.0㎡ (本館)
313.7㎡ (新館)



日高事業所全景



熊谷出張所全景

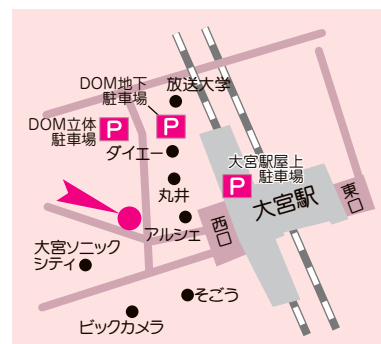
熊谷出張所

- 1 開設年月日 昭和58年7月1日
- 2 所在地 360-0806
埼玉県熊谷市奈良新田398-1
- 3 案内 JR高崎線熊谷駅北口からおよそ6km
048-525-1330
- 4 敷地面積 6,289㎡ (熊谷市有地)
- 5 建物の構造 鉄筋コンクリート造
地上2階、地下1階建
- 6 延床面積 2,613.7㎡

献血ルームの案内

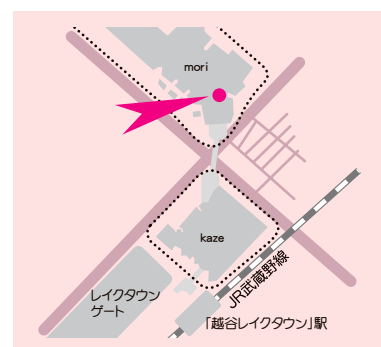
大宮献血ルーム ウェスト

- 1 所在地
〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-4-1
DOM PARTⅢビル 5F・6F
- 2 電話
048-658-5757
- 3 受付時間
9:45～18:30
- 4 休業日 年末年始
(臨時開設があります)



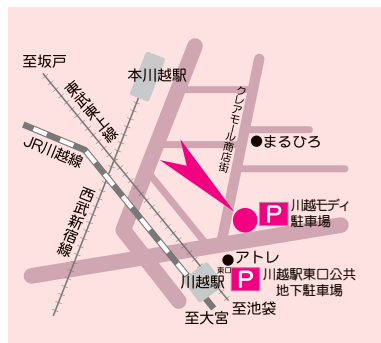
越谷レイクタウン献血ルーム

- 1 所在地
〒343-0828 埼玉県越谷市レイクタウン3-1-1
イオンレイクタウンmori 1F
- 2 電話
048-987-3737
- 3 受付時間
9:45～17:30
- 4 休業日 年末年始(臨時開設があります)



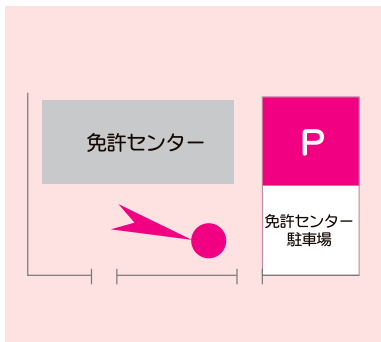
川越クリアモール献血ルーム

- 1 所在地
〒350-1122 埼玉県川越市脇田町4-2
川越モディ4F
- 2 電話
049-225-8760
- 3 受付時間
10:00～17:30
- 4 休業日 年末年始(臨時開設があります)
モディ休館日



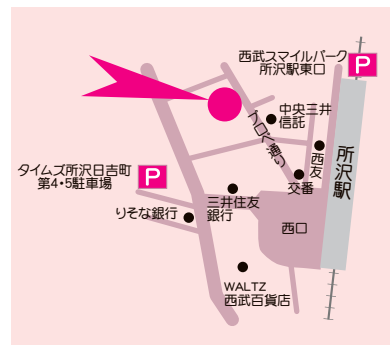
鴻巣献血ルーム

- 1 所在地
〒365-0028 埼玉県鴻巣市鴻巣405-4
埼玉県運転免許センター内
- 2 電話
048-543-5511
- 3 受付時間
9:00～13:00 / 14:00～16:30
- 4 休業日 土曜・祝日及び年末年始
(運転免許センターの休業日)



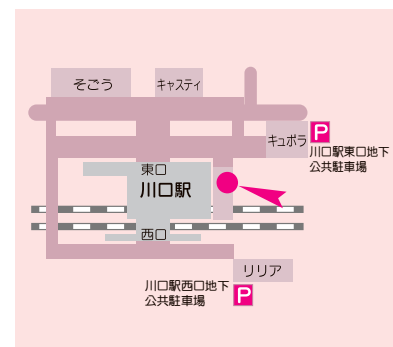
所沢プロペ通り献血ルーム

- 1 所在地
〒359-1123 埼玉県所沢市日吉町10-19
Tokorozawa ex2F
- 2 電話
04-2903-9277
- 3 受付時間
9:45~13:00/14:00~17:30
- 4 休業日 毎週金曜日
※金曜日が祝日の場合は開所
年末年始(臨時開設があります)



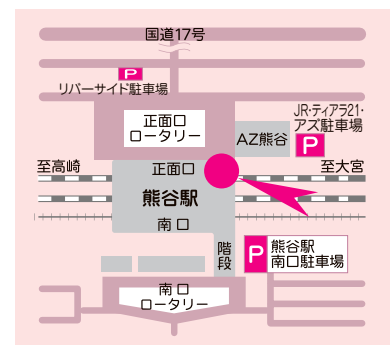
川口駅献血ルーム

- 1 所在地
〒332-0017 埼玉県川口市栄町3-1-24
川口駅東口ビル3F
- 2 電話
048-223-7661
- 3 受付時間
9:45~13:00/14:00~17:30
- 4 休業日 年末年始
(臨時開設があります)



熊谷駅献血ルーム

- 1 所在地
〒360-0037 埼玉県熊谷市筑波2-112
JR熊谷駅構内
- 2 電話
048-525-8802
- 3 受付時間
9:45~13:00/14:00~17:30
- 4 休業日 毎週木曜日
※木曜日が祝日の場合は開所
年末年始(臨時開設があります)



広報・キャンペーン活動

1 世界献血者デー

開催日	平成29年6月11日(日)
会場	大宮ホコライブパフォーマンス会場
内容	6月14日の世界献血者デーの周知と若年層への献血及びツイッターアカウントのPR活動。献血バスにて献血実施。
協力	大宮銀座商店街協同組合 Excelsior Music Store 埼玉県立常盤高等学校



世界献血者デーイベント

2 第12回いのちと献血俳句コンテスト

期間	平成29年6月23日(金)～10月13日(金)
内容	若年層を中心に献血に関する俳句を募集
後援	厚生労働省・文部科学省・埼玉県教育委員会・読売新聞社
協力	株式会社ポケモン



第12回いのちと献血俳句コンテスト

3 彩の国さいたま 愛の血液助け合い運動

期間	平成29年7月1日(土)～8月31日(木)
会場	移動採血車及び県内献血ルーム
内容	「献血推進ポスターコンクール」最優秀賞ポスターの掲示
イベント	7月28日(金)「第48回彩の国さいたま愛の血液助け合いの集い」(埼玉会館)を開催し、献血功労者への感謝状の贈呈及びコンクール優秀作品受賞者の表彰
共催	埼玉県・日本赤十字社埼玉県支部
後援	埼玉県教育委員会・埼玉県警察本部・埼玉県市長会・埼玉県町村会・一般社団法人埼玉県医師会・一般社団法人埼玉県歯科医師会・一般社団法人埼玉県薬剤師会・埼玉県薬事団体連合会
協賛	健康保険組合連合会埼玉連合会・埼玉県国民健康保険団体連合会・社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会・一般財団法人埼玉県交通安全協会



第48回 彩の国さいたま 愛の血液助け合いの集い

4 クリスマス献血キャンペーン

期間	平成29年12月1日(金)～12月25日(月)
会場	各移動採血車及び県内献血ルーム
内容	マスメディア・ポスター・ポケットティッシュによるPR
イベント	○12月23日(土) JR大宮駅西口コンコースイベントスペース・JR大宮駅西口ロータリータクシープール 埼玉西武ライオンズ選手によるトーク・ビンゴ大会・献血バスにて献血実施・彩の国けんけつ特命大使「にゃんたぶう」、彩の国けんけつ大使「友寄連」「ピーターパンJr.」、尚美学園大学ゴスペルサークル、川越CLEAR'S、中央大学ソングリーディング部 ○12月23日(土) アリオ上尾・イオンモール羽生 学生献血推進ボランティアによる献血呼びかけ及び献血協力者へ記念品配布
共催	埼玉県・日本赤十字社埼玉県支部
協力	埼玉西武ライオンズ・埼玉県青年赤十字奉仕団連絡協議会・埼玉県学生献血推進連盟・大宮西口ロータリークラブ・アリオ上尾・イオンモール羽生・JR大宮駅



クリスマス献血キャンペーン

5 はたちの献血キャンペーン

期 間	平成30年1月1日（月）～2月28日（水）
会 場	各移動採血車及び県内献血ルーム
内 容	マスメディアやHP及びSNSによるPR 献血ルーム及び献血バスにて献血を実施した新成人 を対象に県が作製した記念品を配布
共 催	埼玉県



はたちの献血キャンペーン

6 彩の国けんけつキャラバン☆

日 時	平成30年2月18日（日） JR大宮駅西口コンコース 3月11日（日） イオンモール羽生 3月25日（日） イオンモール川口前川 (献血主催 公益社団法人川口青年会議所)
内 容	彩の国けんけつ特命大使「にゃんたぶう」、彩の国 けんけつ大使「ピーターパンJr.」、東京ガスクリエ イターズチアリーダーズによるステージイベント・ 着ぐるみハートラちゃん、けんけつちゃん、コバト ンによる献血広報活動・献血クイズ・献血バスにて 献血実施
協 力	JR大宮駅・イオンモール羽生・イオンモール川口 前川



彩の国けんけつキャラバン

7 卒業献血キャンペーン

期 間	平成30年2月1日（木）～4月30日（月）
会 場	県内献血ルーム
内 容	3月に卒業する県内の高等学校へチラシを配布し、 そのチラシを持参いただいた献血協力者へ記念品を 進呈
共 催	埼玉県・埼玉県教育委員会



卒業献血キャンペーン

研修・見学

1 臨床研修医対象研修

目的：輸血を行う立場にある医師を対象とした血液事業に対する理解の向上

埼玉医科大学 臨床研修医

5月15日(1名)・6月1日(1名)・6月26日(1名)・10月2日(1名)・10月10日(1名)・
11月1日(1名)・12月1日(1名)・12月11日(1名)・12月25日(1名)・

埼玉医科大学総合医療センター 臨床研修医

8月1日(1名)・1月4日(2名)

さいたま赤十字病院 臨床研修医

6月5日(1名)・6月12日(1名)・6月19日(1名)・7月3日(1名)・7月10日(1名)・7月24日(1名)・
8月21日(1名)・9月19日(1名)・9月25日(2名)

深谷赤十字病院 臨床研修医

10月10日(1名)・12月4日(1名)

参加人数合計：24名

2 学生対象研修

(1) 埼玉県学生献血推進連盟“赤い絆”新規加入者宿泊研修

目的：学生献血推進連盟新規加盟者を対象とした献血についての基礎知識の取得、学生献血推進連盟OB・OGの講演にて活動意義の理解やモチベーション向上を図る。

9月7日・8日(52名)

(2) 学生献血推進リーダーの集い

目的：各地域センターでの若年層献血者確保に対する取り組みやキャンペーンの報告並びに情報の共有を図り活動の幅を広げる。

8月6日・7日(3名)



学生献血推進連盟新規加入者宿泊研修①



学生献血推進連盟新規加入者宿泊研修②



学生献血推進リーダーの集い①



学生献血推進リーダーの集い②

3 学生を対象とした講座

目的：将来の献血を担う若年層を対象とした献血の重要性の伝達

- 4月14日(金) 関東福祉専門学校(生徒59名・教員3名・他3名)
- 10月19日(木) 埼玉県立鴻巣高等学校(生徒278名・教員18名)
- 11月 9日(木) 春日部市立武里南小学校(生徒147名・教員4名)
- 11月15日(水) 春日部市立江戸川中学校(生徒21名・教員6名)
- 12月 4日(月) 春日部市立武里小学校(生徒63名・教員7名・他6名)
- 12月14日(木) 埼玉県立狭山工業高等学校(生徒586名・教員53名・他5名)
- 1月25日(木) 吉川市立美南小学校(教員45名、他10名)
- 2月 6日(火) 埼玉県立桶川高等学校(生徒45名・他8名)
- 2月16日(金) 春日部市立飯沼中学校(生徒113名・他8名)
- 3月19日(月) 埼玉県立川口北高等学校(生徒764名・教員61名)

参加人数合計：生徒2,076名 教員・他237名



春日部市立武里南小学校



吉川市立美南小学校



埼玉県立桶川高等学校

4 献血協力団体における献血研修会

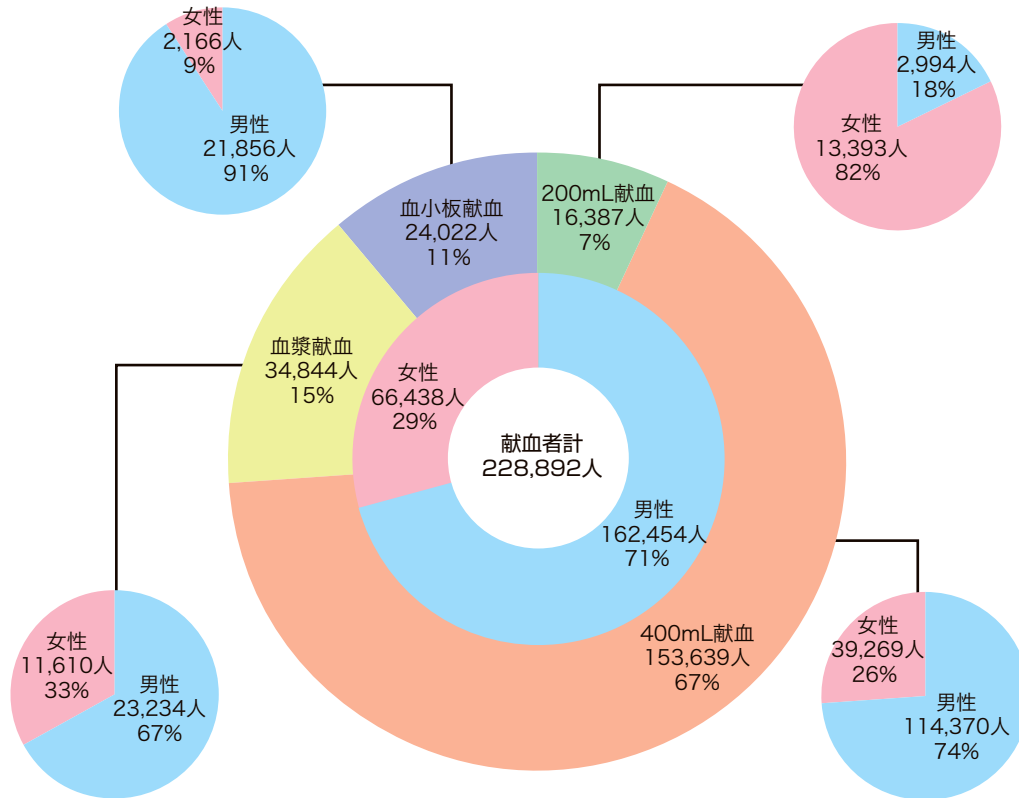
目的：献血協力団体を対象とした献血の現状報告や健康や献血に関する知識の共有

- 5月3日 天理教埼玉教務支庁 (30名)
- 11月3日 天理教埼玉教務支庁 (30名)
- 2月2日 天理教埼玉教務支庁 (30名)

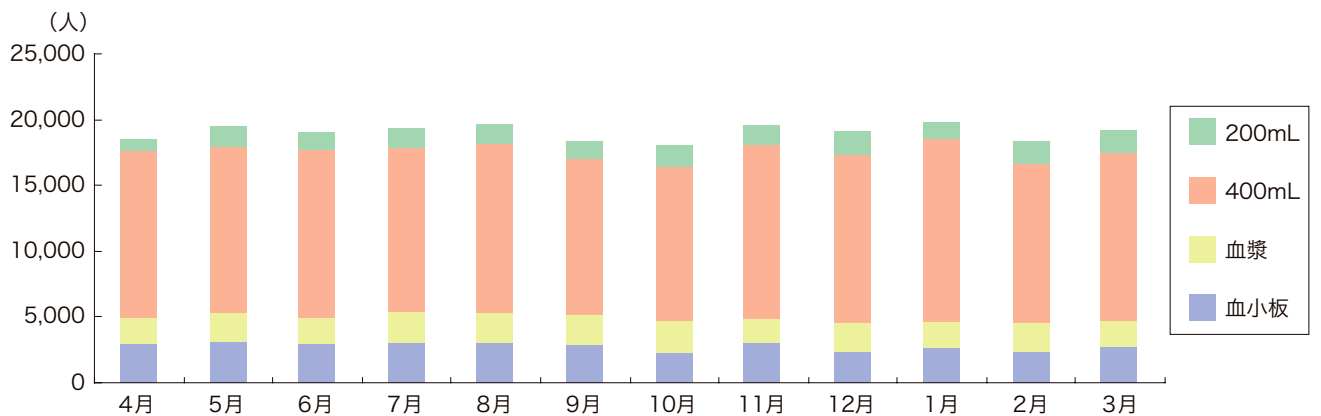
参加人数合計：90名

統計資料

1 献血種類別献血者数



月別献血者数



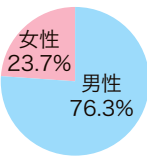
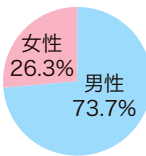
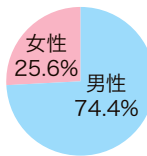
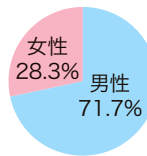
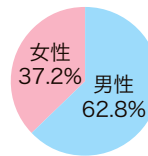
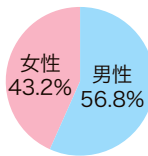
	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計	228,892	18,474	19,604	19,124	19,333	19,600	18,181	18,082	19,607	19,301	19,914	18,463	19,209
200mL	16,387	914	1,129	987	1,207	1,046	1,111	1,511	1,605	2,074	1,400	1,805	1,598
400mL	153,639	12,431	13,184	13,113	12,846	13,369	12,013	11,839	13,019	12,790	13,815	12,360	12,860
血漿	34,844	3,045	3,191	3,057	3,232	3,161	3,047	2,555	3,056	2,517	2,751	2,485	2,747
血小板	24,022	2,084	2,100	1,967	2,048	2,024	2,010	2,177	1,927	1,920	1,948	1,813	2,004

2 年代別献血者数

16~19歳 14,658人 6.4%	20~29歳 32,946人 14.4%	30~39歳 38,636人 16.9%	40~49歳 68,714人 30.0%	50~59歳 53,425人 23.3%	60~69歳 20,513人 9.0%
---------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------

(人)

男性	16~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳	
	合計		合計		合計		合計		合計		合計	
	8,319	200mL	20,682	200mL	27,719	200mL	51,154	200mL	39,357	200mL	15,223	200mL
	2,140	400mL	179	400mL	119	400mL	183	400mL	202	400mL	171	400mL
	5,859	血漿	16,982	血漿	20,420	血漿	35,313	血漿	26,043	血漿	9,753	血漿
	202	血小板	1,735	血小板	3,532	血小板	7,301	血小板	6,922	血小板	3,542	血小板
	118		1,786		3,648		8,357		6,190		1,757	



(人)

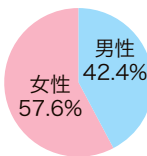
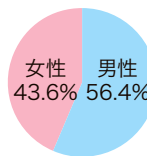
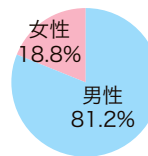
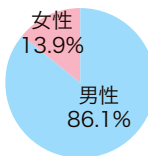
女性	16~19歳		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳	
	合計		合計		合計		合計		合計		合計	
	6,339	200mL	12,264	200mL	10,917	200mL	17,560	200mL	14,068	200mL	5,290	200mL
	4,120	400mL	2,069	400mL	1,601	400mL	2,482	400mL	2,163	400mL	958	400mL
	1,976	血漿	7,900	血漿	6,514	血漿	10,914	血漿	8,652	血漿	3,313	血漿
	220	血小板	1,921	血小板	2,234	血小板	3,294	血小板	2,922	血小板	1,019	血小板
	23		374		568		870		331		0	

3 職業別献血者数

公務員 28,069人	会社員 129,663人	学生 20,826人	その他 50,334人
----------------	-----------------	---------------	----------------

(人)

男性	公務員		会社員		学生		その他	
	合計		合計		合計		合計	
	24,163	200mL	105,222	200mL	11,749	200mL	21,320	200mL
	125	400mL	559	400mL	2,140	400mL	170	400mL
	18,346	血漿	73,594	血漿	8,814	血漿	13,616	血漿
	3,023	血小板	15,771	血小板	442	血小板	3,998	血小板
	2,669		15,298		353		3,536	

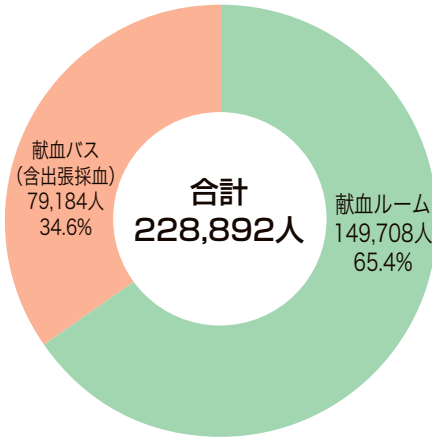
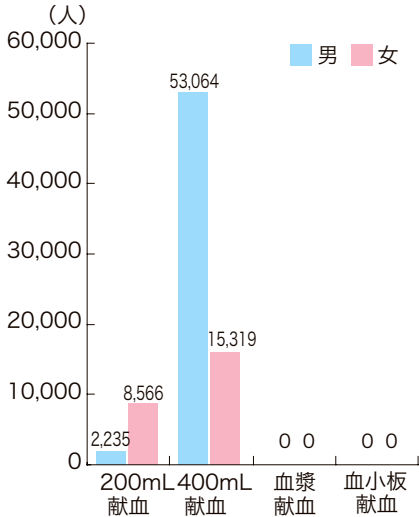


(人)

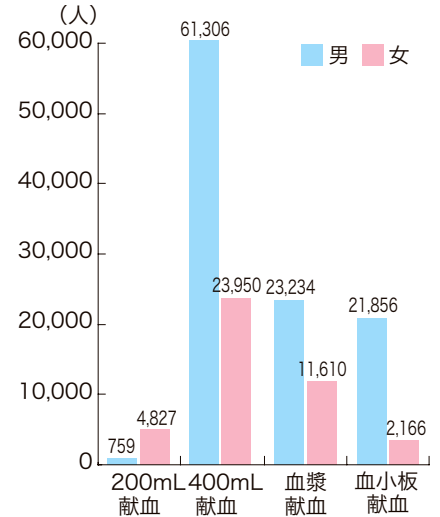
女性	公務員		会社員		学生		その他	
	合計		合計		合計		合計	
	3,906	200mL	24,441	200mL	9,077	200mL	29,014	200mL
	748	400mL	3,867	400mL	4,532	400mL	4,246	400mL
	2,400	血漿	15,432	血漿	3,820	血漿	17,617	血漿
	662	血小板	4,253	血小板	644	血小板	6,051	血小板
	96		889		81		1,100	

4 受入施設別献血者数

移動採血



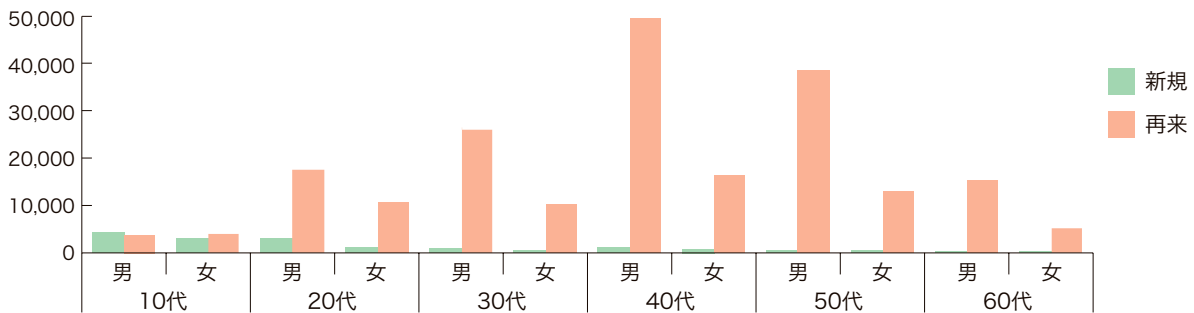
献血ルーム



5 年代別新規再来献血者数

(人)

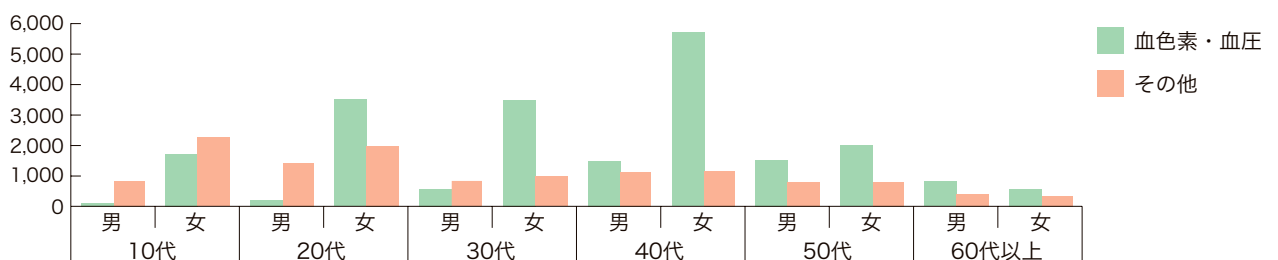
	合計	10代		20代		30代		40代		50代		60代		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計	228,892	8,319	6,339	20,682	12,264	27,719	10,917	51,154	17,560	39,357	14,068	15,223	5,290	162,454	66,438
新規	17,781	4,239	2,925	3,291	1,434	1,364	628	1,348	890	741	640	158	123	11,141	6,640
再来	211,111	4,080	3,414	17,391	10,830	26,355	10,289	49,806	16,670	38,616	13,428	15,065	5,167	151,313	59,798



6 献血不適格者数

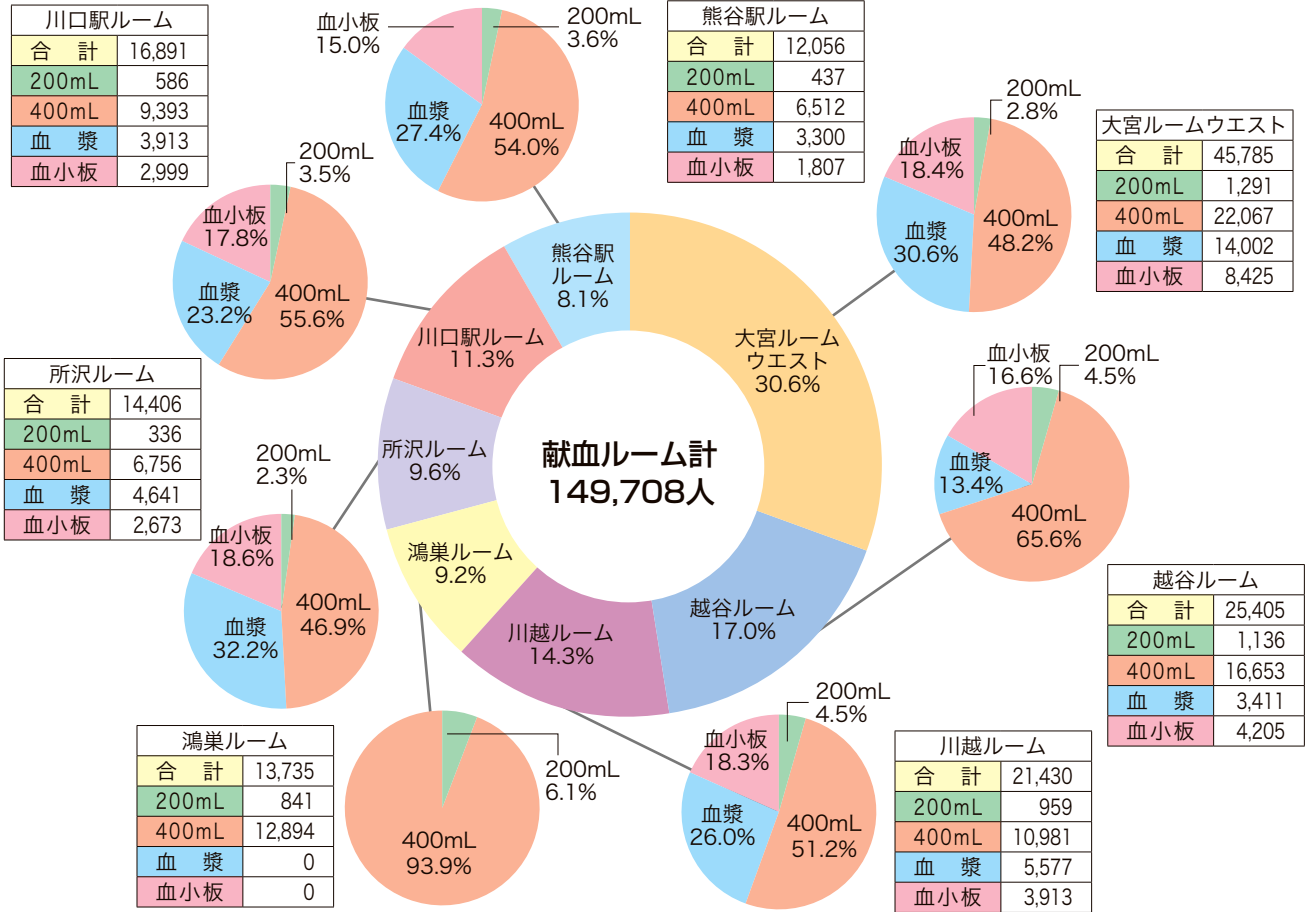
(人)

	合計	10代		20代		30代		40代		50代		60代以上		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計	34,514	973	3,958	1,477	5,487	1,382	4,424	2,573	6,974	2,450	2,763	1,226	827	10,081	24,433
血色素・血圧	21,764	126	1,777	270	3,494	563	3,427	1,453	5,792	1,573	1,925	818	546	4,803	16,961
その他	12,750	847	2,181	1,207	1,993	819	997	1,120	1,182	877	838	408	281	5,278	7,472



7 献血ルームの受入状況

① 献血ルーム別献血者数



② 職業別献血者数

(人)

	合計	公務員		会社員		高校生		学生		その他	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
合計	149,708	11,548	1,921	73,779	15,252	1,545	1,940	3,860	3,316	16,423	20,124
ウエスト	45,785	3,915	731	22,527	4,921	426	618	1,275	1,075	4,542	5,755
越谷	25,405	1,775	288	12,952	2,443	251	306	515	415	2,519	3,941
川越	21,430	1,624	215	9,867	2,283	334	435	650	640	2,503	2,879
鴻巣	13,735	764	110	6,987	1,281	135	69	491	231	1,783	1,884
所沢	14,406	1,624	237	6,454	1,348	137	145	395	455	1,764	1,847
川口駅	16,891	956	210	8,896	1,887	129	161	263	273	1,802	2,314
熊谷駅	12,056	890	130	6,096	1,089	133	206	271	227	1,510	1,504

③ 新規再来別献血者数

(人)

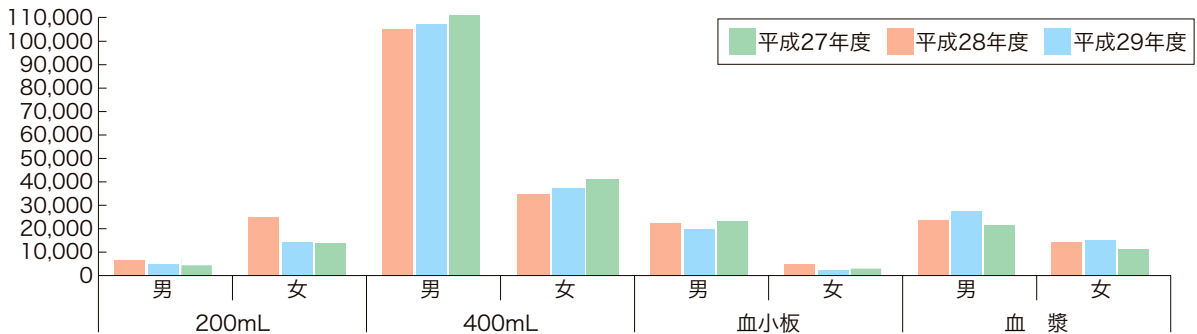
	合計	初回		再来	
		男	女	男	女
合計	149,708	3,626	2,668	103,529	39,885
ウエスト	45,785	679	543	32,006	12,557
越谷	25,405	587	489	17,425	6,904
川越	21,430	451	456	14,527	5,996
鴻巣	13,735	1,221	516	8,939	3,059
所沢	14,406	217	216	10,157	3,816
川口駅	16,891	267	252	11,779	4,593
熊谷駅	12,056	204	196	8,696	2,960

8 献血者の推移

① 献血種類別の推移

(人)

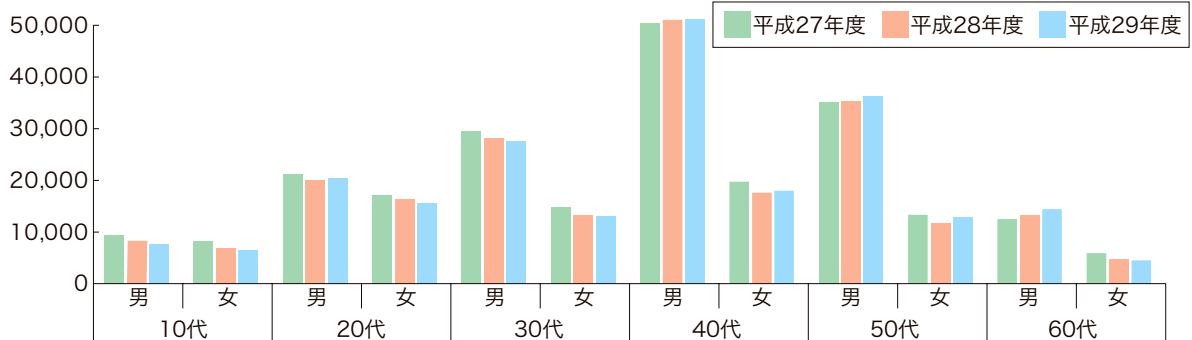
	合計	200mL		400mL		血小板		血漿		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成27年度	235,485	5,639	24,597	107,112	33,660	21,001	3,397	25,424	14,655	159,176	76,309
平成28年度	225,922	3,357	13,686	108,372	35,628	19,505	1,704	28,249	15,421	159,483	66,439
平成29年度	228,892	2,994	13,393	114,370	39,269	21,856	2,166	23,234	11,610	162,454	66,438



② 年齢別の推移

(人)

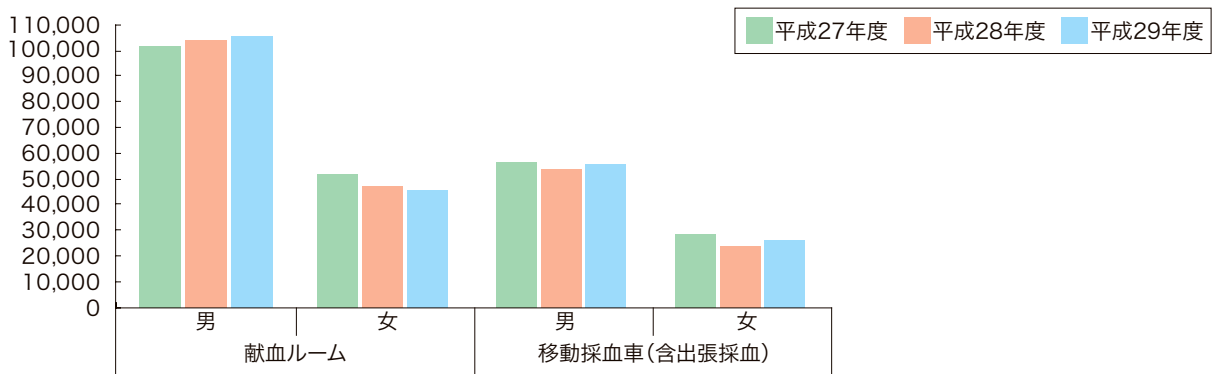
	合計	10代		20代		30代		40代		50代		60代		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成27年度	235,485	9,141	8,131	21,495	15,755	29,700	13,280	50,214	19,436	34,848	13,870	13,778	5,837	159,176	76,309
平成28年度	225,922	8,664	6,666	20,594	13,141	28,728	10,887	51,043	17,275	36,017	13,060	14,437	5,410	159,483	66,439
平成29年度	228,892	8,319	6,339	20,682	12,264	27,719	10,917	51,154	17,560	39,357	14,068	15,223	5,290	162,454	66,438



③ 受入施設別推移

(人)

	合計	献血ルーム		移動採血車 (含出張採血)		計	
		男	女	男	女	男	女
平成27年度	235,485	103,324	50,117	55,852	26,192	159,176	76,309
平成28年度	225,922	106,600	45,845	52,883	20,594	159,483	66,439
平成29年度	228,892	107,155	42,553	55,299	23,885	162,454	66,438

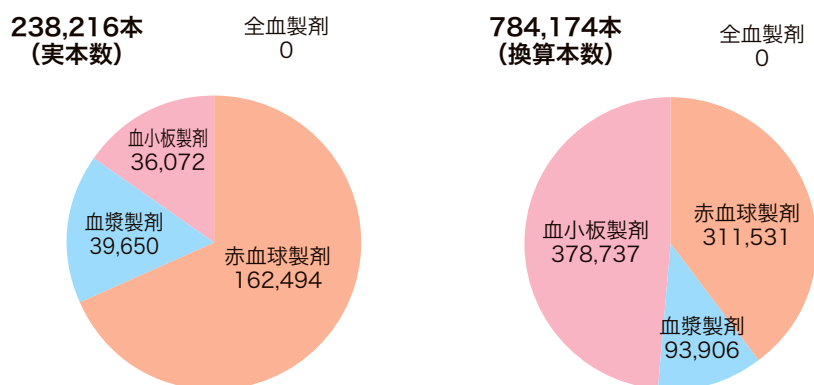


9 供給の状況

①血液製剤種類別供給数

	1単位製剤	2単位製剤	成分					本数合計	単位換算
			FFP-480	5単位	10単位	15単位	20単位		
全血製剤	0	0	—	—	—	—	—	0	0
赤血球製剤	13,457	149,037	—	—	—	—	—	162,494	311,531
血漿製剤	1,462	30,154	8,034	—	—	—	—	39,650	93,906
血小板製剤	0	1	—	302	32,435	2,761	573	36,072	378,737
合計	14,919	179,192	8,034	302	32,435	2,761	573	238,216	784,174

※血漿製剤の単位換算方法が変更になったことから、成分「FFP-480」の項目を追加しました。

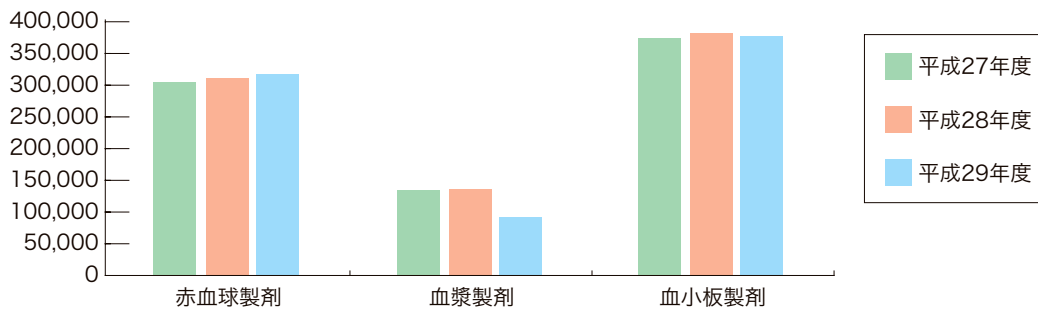


②輸血用血液製剤の推移

(200mL換算本数)

	合計	全血製剤	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤
平成27年	814,493.0	4	302,977	135,010.0	376,502
平成28年	822,388.0	6	305,705	136,167.0	380,510
平成29年	784,174.0	0	311,531	93,906.0	378,737

※平成29年度の実績を旧算定方法にて計算すると132,825単位となります。

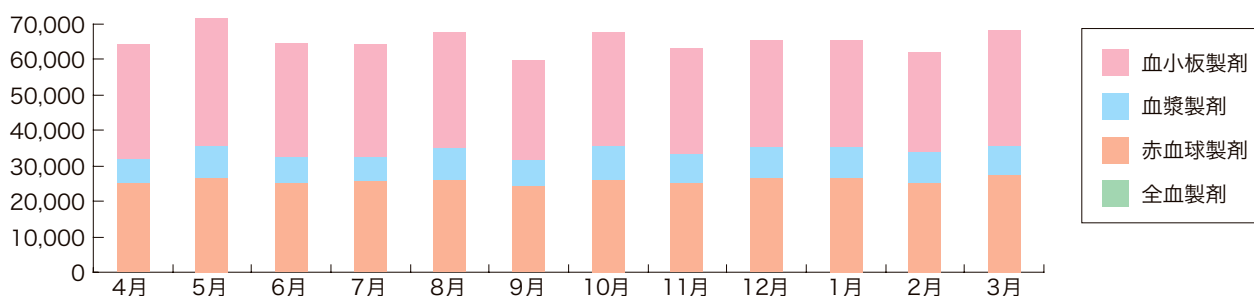


※全血製剤は、値が小さいため省略した。

③月別供給数

(200mL換算本数)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全血製剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤血球製剤	311,531	24,969	26,889	24,758	25,133	26,820	24,110	26,613	25,627	26,830	26,790	25,437	27,555
血漿製剤	93,906	7,067	8,675	7,660	6,912	7,910	6,886	8,642	7,376	8,002	8,938	7,820	8,018
血小板製剤	378,737	32,480	35,945	33,260	32,220	32,545	28,715	32,697	30,000	30,260	29,895	28,610	32,110





日本赤十字社

埼玉県赤十字血液センター

<https://www.bs.jrc.or.jp/kts/saitama/>

